

特定非営利活動法人 日本バイオインフォマティクス学会
第 27 回理事会議事録

日時 2022 年 9 月 12 日(月)14:00～18:00
場所 千里ライフサイエンスセンター701 号室(大阪府豊中市) 、オンライン
出席者 五斗進理事長、山西芳裕副理事長、浅井潔理事、有田正規理事・幹事、荻島創一理事、尾崎遼理事・幹事、木下賢吾理事・幹事、白井剛理事・幹事、竹本和広理事、福永津嵩理事、沖真弥理事、川上英良理事、木下聖子理事、佐藤健吾理事、夏目やよい理事、松井求理事、山下理宇理事・幹事
(表決書提出) 遠里由佳子理事
以上 18 名出席扱い(全理事数 21 名)
オブザーバ 奥田修二郎幹事、笠原浩太幹事、岩崎涉幹事、水口賢司幹事、大林武幹事、武藤愛幹事、齋藤裕幹事、池松真也地域部会長、根本航監事、河合盛進監事、事務局総務牛山絵美子
議長 五斗進理事長(定款 35 条による)

配布資料

議事次第

(審議事項参照資料)

別紙 s1 理事会審議事項(第一号議案～三号議案)

(報告事項参照資料)

別紙 h1.1 年会幹事 2022 年年会について

別紙 h1.2 年会幹事 2023 年年会について

別紙 h2.1 会計幹事 会計中間報告(7月締め)

別紙 h2.2 会計幹事 2023 年度消費税納税について

別紙 h2.3 会計幹事 インボイス制度について

別紙 h4 研究会幹事 2022 年度公募研究会開催記録

別紙 h18.1 総務幹事 会員数の推移

別紙 h18.2 総務幹事 ホームページビュー数

別紙 h18.3 総務幹事 メール審議議事録

別紙 h25 沖縄地域部会 バイオインフォマティクス人材育成講座パンフレット

別紙 h26 公募研究会 2022a-01「質量分析インフォマティクス研究会・第 7 回ワークショップ ONLINE」

別紙 h27 公募研究会 2022a-02「第 32 回バイオメディカル研究会「最先端構造解析の現状と課題」

五斗理事長、山西副理事長より第 27 回理事会開催にあたって挨拶があり、議事録署名人として松井理事、尾崎理事が指名され、満場一致で承認された。

〈審議事項〉

第一号議案 2024 年度 JSBi 年会 年会長の承認可否

木下賢吾理事・幹事より、別紙 s1 を基に、2024 年年会開催について、2024 年 10 月 22 日から 24 日の日程で Asia-Pacific Bioinformatics Joint Congress (APBJC) と合同での開催を検討しており、大会長を岩崎渉幹事としてたい旨が説明され、これを議事に諮ったところ、全会一致で可決決定された。

第二号議案 Oxford Journals JSBi Prize 規定（2）の改定の承認可否

大上幹事より、別紙 s1 を基に、Oxford Journals - Japanese Society for Bioinformatics Prize 選考規定について以下の通りに改正したい旨が説明され、これを議事に諮ったところ、出席した会員の議決権の過半数を持って異議なく可決決定された。

【現行】

(受賞者及び受賞候補者の条件)

第3条 この賞は、以下の各号の全てに該当する者を受賞候補者とする。

- (1) 第4条に定める推薦があった者。
- (2) 当該年度の4月1日現在において39歳未満の者。
- (3) 当該年度においてこの法人の会員である者。
- (4) 当該年度の年会に参加することが可能であり、かつ、参加する意思を有している者。
- (5) この賞を以前に受賞したことがなく、かつ、平成24年度以前についてはこの賞または Oxford University Press Bioinformatics Prize を受賞した研究発表の第一発表者ではない者。

【変更後】

(受賞者及び受賞候補者の条件)

第3条 この賞は、以下の各号の全てに該当する者を受賞候補者とする。

- (1) 第4条に定める推薦があった者。
- (2) 当該年度の4月1日現在において38歳未満の者。ただし、出産・育児により研究に専念できない期間があった場合は、応募要件を40歳未満とする。なお、研究に専念できない期間とは、休暇の取得や休職・離職などその期間が定量的に算定できるものであること。
- (3) 当該年度においてこの法人の会員である者。
- (4) 当該年度の年会に参加することが可能であり、かつ、参加する意思を有している者。
- (5) この賞を以前に受賞したことがなく、かつ、平成24年度以前についてはこの賞または Oxford University Press Bioinformatics Prize を受賞した研究発表の第一発表者ではない者。

(推薦様式の word ファイルの最後に1ページ追加し、以下の文言を追加)

研究に専念できない期間があった場合は、以下に研究に専念できない期間を記載するとともに、出産・育児の事実を確認するための最低限の書類(母子手帳の表紙の写等)を貼り付け、または添付すること。

第三号議案 ジェンダーバランス調査のための年会開催規定の改定の承認可否

武藤幹事より、別紙 s1 を基に年会開催規定について以下の通りに改正したい旨が説明され、これを議事に諮ったところ、出席した会員の議決権の過半数を持って異議なく可決決定された。

【現行】

第10条 年会開催後、年会長は監査報告書とともに年会開催について理事会に報告し、承認を得なければならない。

【変更後】

第10条 年会開催後、年会長は監査報告書とともに年会開催について理事会に報告し、承認を得なければならない。

2 年会開催報告には参加者および発表者の性別ごとの人数の調査結果を含めるものとする。ただし、性別の調査においては多様性に配慮した選択肢を設けるとともに、回答を任意とする。

〈報告事項〉

【各幹事、会長からの報告】

1 年会（木下賢吾理事・幹事、水口幹事、山下理事・幹事）

水口幹事より、別紙 h1.1 に基づき、2022 年度年会準備報告がなされた。2022 年年会は、2022 年 9 月 13 日(火)～9 月 15 日(木)にかけて千里ライフサイエンスセンター(大阪府豊中市)にて開催すること、行動規範を示したこと、会場における新型コロナウイルス感染症対策等について報告された。

山下理事・幹事より、別紙 h1.2 に基づき、2023 年 9 月 7 日(木)～9 月 9 日(金)にかけて、柏の葉カンファレンスセンター(千葉県柏市)にて 2023 年度年会を開催することが報告された。また、大会長を鈴木謙氏、実行委員長を山下理宇理事・幹事とすることが報告された。最終日については、大会開催地周辺で開催される「柏の葉まつり」との連携を打診中であることが報告された。

2 会計(大林幹事、笠原幹事)

大林幹事より、別紙 h2.1 に基づき、会計の中間報告があり、問題なく執行されていることが報告された。また、別紙 h2.2 に基づき、2023 年度は消費税納税年度であることが報告された。加えて、別紙 h2.3 に基づき、2023 年 10 月開始のインボイス制度への対応方針について、来年度は現状維持(適格請求書発行事業者にならない)とすることが報告された。

3 認定試験(白井理事・幹事)

白井理事・幹事より、2022 年度のバイオインフォマティクス技術者認定試験に関する報告があった。受験期間は 2022 年 11 月 12 日(土)～2022 年 12 月 4 日(日)であり、そのうち1回のみ受験可とし、また、2022 年 11 月 26 日(土)・27 日(日)については、正規の CBT 受験会場に加えて沖縄工業高等専門学校(名護市)に特別受験会場(準会場)を設置することになったことが報告された。また、有田理事・幹事より 2022 年度受験料は据え置きとしていることが確認された。

4 研究会(岩崎幹事)

岩崎幹事より、別紙 h4 に基づき、2022 年度公募研究会の開催状況の報告があった。また、公募研究会の採択件数に関して、業務量の兼ね合いから毎回3件までとすることについて、来年度はそのように運用することとなった。

5 ニュースレター(尾崎理事・幹事、松本幹事)

尾崎理事・幹事より、2022 年 3 月にニュースレター第 41 号を発行し、次号は 2023 年 1 月発行を目指し準備を進めていることが報告された。また、ニュースレターの一部の記事をブログサービスにて記事化することについて、公開直前であることが報告された。

6 JSBi Bioinformatics Review(松本幹事、尾崎理事・幹事)

尾崎理事・幹事より、JSBi Bioinformatics Review3巻(2022)を 2022 年 6 月に公開したことが報告された。また、2022 年 11 月には 4 巻(2022)の公開を予定していることが報告された。

7 ダイバーシティ推進(武藤幹事)

武藤幹事より、男女共同参画学協会連絡会にて 2021 年に開催された第5回大規模アンケート(第 5 回 科学技術系専門職の男女共同参画実態調査)報告書のアンケート解析WGに協力したこと、概要版が 10 月末に公開されるため、閲覧・活用してほしい旨が報告された。加えて、2022 年年会実行委員会として行動規範を定めたことに関連し、来年度以降も行動規範を設置してほしい旨の報告があった。また、今回初めてキャリアパス・ダイバーシティ共同セッションを開催したことについても報告された。

8 ISCB(岩崎幹事)

岩崎幹事より、今年度の ISMB は 2022 年 7 月 10 日～14 日に米国マディソン市とオンラインでのハイブリッドで開催されたことが報告された。また、ECCB は 2022 年 9 月 12 日～21 日にスペイン・シッチェスとオンラインでのハイブリッドで開催されたことが報告された。

9 若手(大上幹事)

審議事項に加えての報告事項はなかった。

10 渉外(浜田幹事)

五斗理事長より、2022 年度より新たに岩井化学薬品株式会社、株式会社 BlueMeme、学校法人滋慶学園東京医薬看護専門学校 バイオデータサイエンス学科、ノボザイムジャパン株式会社の合計4社が賛助会員になったことについて報告があった。岩崎幹事より賛助会員について、各先生から関連会社への声かけの協力について依頼があった。

11 連携(鎌田理事・幹事)

五斗理事長より、本学会は生物科学学会連合に所属しており、鎌田理事・幹事が委員として活動していることが報告された。

- 12 広報(齋藤幹事)
齋藤幹事より、JSBiホームページのバイオインフォマティクス研究室検索に、現在約40件ほどの掲載があることが報告された。また、ホームページ閲覧数としては、認定試験、年会関連ページが上位にあることが報告された。
- 13 人材育成(有田理事・幹事、白井理事・幹事)
有田理事・幹事より、現在進めている人材スキル標準と認定試験の連携について、単一学会での運用ではなく、複数学会によるサポート体制による運用を進められるよう検討していること、また、認定試験の運営を自立した形で行うため、まずは受験者数1000名を超えることを目指すことが報告された。
- 14 活性化(奥田幹事)
奥田幹事より、前回の理事会で案出した要望書の依頼への対応ルール案について報告があり、利益相反について配慮したルールに修正すべきとの意見について、議論を継続することとなった。
- 15 個別化医療推進(木下賢吾理事・幹事)
特に報告はなかった。
- 16 Genome Informatics(五斗理事長・幹事)
特に報告はなかった。
- 17 会長(五斗理事長・幹事)
五斗理事長より、後藤名誉会員からの寄付金について、よりよい活用方法について検討を続けることとなった。
- 18 総務(岩崎幹事)
岩崎幹事より、別紙h18.1,2に基づき、会員統計およびホームページビュー数について、報告された。特に会員が1,000名に近づいており、賛助会員も今年度4社加入したことが報告された。また、賛助会員の入会フォームに入会の経緯の項目を追加することとした。加えて、別紙h18.3に基づき、メール審議議事録について確認がなされた。
- 19 会長補佐(岩崎幹事・木下賢吾理事・幹事)
特に報告はなかった。

【地域部会長からの報告】

- 20 北海道地域部会(遠藤地域部会長)
特に報告はなかった。
- 21 東北地域部会(木下賢吾地域部会長)

特に報告はなかった。

22 関西地域部会(鎌田地域部会長)

2022 年 5 月 20 日(金)に開催された「第 32 回バイオメディカル研究会「最先端構造解析の現状と課題」について、別紙 h27 を基に、確認を行った。

23 中国・四国地域部会(森田地域部会長)

特に報告はなかった。

24 九州地域部会(山西地域部会長)

特に報告はなかった。

25 沖縄地域部会(池松地域部会長)

池松地域部会長より、別紙 h25 に基づき、バイオインフォマティクス人材育成講座の開催を予定しており、受講登録者数が 1,000 名を超えていることが報告された。

26 公募研究会 質量分析インフォマティクス研究会・第 7 回ワークショップ ONLINE(山本博之会員)

2022 年 4 月 22 日(金)に開催された「質量分析インフォマティクス研究会・第 7 回ワークショップ ONLINE」について別紙 h26 を基に確認を行った。

以上

以上により議事が終了し、議長は 18 時 00 分閉会を宣言した。

上記の議決を明確にするために、議長および議事録署名人において次に記名押印する。

2022 年 9 月 12 日

特定非営利活動法人日本バイオインフォマティクス学会

理 事 長 五斗 進 印

議事録署名人 松井 求 印

議事録署名人 尾崎 遼 印